

平成26年11月4日

保護者の皆様へ

松原市立松原第七中学校
校長 芝田 雅彦

「平成26年度 全国学力・学習状況調査」の本校独自の結果概要について

晩秋の候、保護者の皆様におかれましてはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。平素は本校教育活動の推進にご理解・ご支援をいただき、まことにありがとうございます。

さて、4月22日に3年生を対象に実施しました「平成26年度 全国学力・学習状況調査」の本校独自の結果の概要につきましては、下記のような課題や特徴が現れています。本校といたしましては、本調査の結果をさらに分析し、課題の改善に取り組むとともに、生徒の学力を把握し、生徒に「確かな学力」を身につけさせるための分かりやすい授業づくり等に一層の努力を重ねてまいりたいと考えています。つきましては、各ご家庭におかれましても、引き続き、基本的な生活習慣の確立や、家庭学習習慣の定着にむけ、ご指導いただきますようお願いいたします。

なお、松原市全体の結果の概要につきましては、松原市のホームページから、子ども＞教育＞教育委員会の取組（学力向上）へと進んでいただくと掲載されています。ご参照下さい。

記

・ 学力調査より

□ 国語

- ・ 「書く能力」は強く、正答率が全国平均を上回っている問題が多い。
- ・ 無答率が低い。ほぼ、全国平均を下回っている。特にB問題が低いのがよい。最後まで意欲を失わずに、真剣に問題に取り組んでいたことがわかる。

※ 課題

- ・ 正答数分布グラフを見ると、二極化傾向になっている。A問題では、下位層からさらに離れた低い層が存在する。B問題では、下位層の方が大きい。
- ・ 「話すこと・聞くこと・読むこと」の領域に、少しずつ課題が見られる。

※ 今後の対策

- ・ 「話すこと・聞くこと」に力を入れた授業の創造 …… 目的や状況に応じて、資料や機器などを効果的に活用して報告し合う学習活動を行う。また、聞き手としては、資料などの情報を参考にしながら必要に応じて質問し、相手が言いたいことを確かめたり、足りない情報を聞き出したりし、自分の考えとの共通点や相違点を整理してまとめるよう指導する。
- ・ 自分の考えをまとめて、書く力をさらに伸ばす …… 国語の授業では、小説などの感想文だけでなく、和歌や詩の鑑賞文を書く指導をする。その際、表現の仕方、作者の思いや見方、作品から受けた印象や感動などをまとめる学習をすすめる。また、音楽科や美術科の学習との関連を図りつつ、絵画や音楽の鑑賞文を書く指導なども進める。

- ・ 二極化の解消。特に学力に課題の大きい生徒たちへの学力保障に力を入れる …… 授業をしっかりと聞くとともに、友達の発言をしっかりと聞き、友達の書いた作品を読み、自分の考えをまとめられるように指導する。ノートやファイルの点検を頻繁に行い、丁寧な字で正確に書くように指導する。また、文法などについては、机間指導をしっかりと行うとともに、小テストなどでスモールステップで学力をつける工夫をし、補充学習も積極的に行う。

□ 数学

- ・ 作図を含む平面図形の項目が全国平均より上回っている。空間図形でも、平面を意識して求める解答もできる。
- ・ 確率の項目の中でも基本的な確率を求める問題はよくできている。

※ 課題

- ・ 全国平均と比較すると、関数の項目の中でも特に1次関数の項目が低くなっている。
- ・ 図形や関数の意味や特徴に関する項目が低くなっている。ただし、反比例の項目は全国平均を上回っている
- ・ 証明や説明の項目や、それに関わる角度計算の項目が全国平均より大きく下回っている。
- ・ 全体的に見て、意味や特徴の理解・説明に関わる問題を苦手としている。

※ 今後の対策

- ・ 「目標に準拠した評価（絶対評価）」の実施に伴い、技能だけでなく、知識・理解や見方・考え方の項目の重要性を伝え、どのような学習をすればよいかの指針をたて定着を図る。
- ・ 自分の言葉で求め方や考え方を書く問題が非常に苦手なので、授業の中で自分の考えを文章で表すような問題に取り組ませていく。

・ 学習状況調査（生徒質問紙）より ＜○は七中生の強み、●は弱みを表す項目＞

○ 家庭学習において、「家で、学校の宿題をしていますか」、「家で、学校の授業の復習をしていますか」の設問に対して「している」と回答した割合が全国の平均値を上回っており、今後も家庭学習ノートの活用も含め家庭学習の定着・充実につなげていきたいと考えます。

● 「読書は好きですか」、「新聞を読んでいますか」の設問に対して「当てはまらない」、「ほとんど、または、全く読まない」と回答した割合が全国の平均値を大きく上回っており、活字離れの傾向が強くなっています。

文字を読むことを習慣化する方策を講じる必要を感じています。

○ 規範意識や仲間関係について「学校の規則を守っていますか」、「友達との約束を守っていますか」の設問に対して「当てはまる」と回答した割合が全国の平均値を上回っており、このことから生徒指導面の落ち着きが感じられる。

○ 「学校生活で、友達関係などで何か悩みを抱えたら、誰に相談することが多いですか」の設問に対して「友達」と答えた割合が全国・大阪府の平均値を大きく上回っており 50%以上の数値を示している。生徒間の信頼関係の強さや良好な仲間関係が構築されていると思われる。

● 「自分には、よいところがあると思いますか」、「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか」の設問に対して「当てはまる」と回答した割合が、例年より低く、その数値が現実的に自己肯定感や達成感が低いことに結びつくのかは、本校が独自に実施しているアンケートの結果からも考察し対応したいと考える。